

「初年度の提出レポートで思考の訓練を」

社会福祉学専攻 君島 淳二（平成 25 年度修了）

通信制大学院へのご入学おめでとうございます。おそらく様々な理由により通信制大学院を志望されたことと思いますが、皆様のその選択は間違っていなかったと冒頭に申し上げておきたいと思います。指導教官の方々は厳しくも優しい心を持って丁寧に対応して下さいますし、演習科目のスクーリングではおそらく今まで経験しなかったような脳への刺激も体感できるはずです。大学院事務室の方々も昔からの知人ではなかったかと思うほど親しみを持って接して下さいます。あとは、私のような不出来な（修士論文提出時点で 1 科目の試験レポートが未提出で最後まで修了できない可能性があった）先輩の真似をしないように、しっかり準備して書き始めることです。

40,000 字というのがご自身の頭脳にとってどのくらい負荷がかかるのかを知る必要があります。400 字詰め原稿用紙 100 枚分を書く（ワープロを打つ）速さのことではなく、理論立てにかかる時間のことです。なぜなら、論文を書く作業というのは、思考を整えることと同義だからです。読み、調べ、知り、視野を広げ、関連づけし、絞り、深掘りし、類推し、納得し、論をたて、それを文字にする。この一連の流れにかかる時間と手間、これが思考過程です。ですから、各教科の提出及び試験レポートというのは、単に単位取得の手段としてではなく、思考を速くするための訓練と思って取組んでください(1 レポート 4,000 ~6,000 字ですから、その約 10 倍ということです)。いざ本番の時に、文献を読みあさりながら同時並行的に書き進めたり、調査をしながら現象だけの説明を延々と書いたりすると、のちに論理構成がちぐはぐになり、書き直しや題目の変更を余儀なくされたりして、それまで取組んだ貴重な時間を無駄にすることになります。実際には 2 年間は無いことはすでに皆様計算されたことと思います。

修士論文では先行研究や先達の文献から引用したキーワード、キーセンテンスの量が成功の秘訣です。なぜなら、引用が多ければ多いほど引用に対する意見（思考の結果）がそれだけ多く示される（書かれる）からです。引用すると個性が無くなる、はまったく正反対です。引用を拒否してしまっは、独りよがりの作文となってしまいます。独りよがりとは個性は違います。なぜそれに共感したのか、なぜそれには同意しないのか、その答えを書いたものが「論文（＝思考過程説明文）」となるのです。これに効くサプリメントを皆様にお教えします。それは「キーワード読書」、「キーワード筆記」です。専門雑誌への投稿

規程ではたびたびキーワードを示すことが求められます。これを逆手にとって、読む時もキーワード探しをして時間を短縮しましょう。小説ではないので 1 ページ目から追う必要はありません。それに最近の文献は編著、共著が多く 1 冊に複数の著者が存在します。目次、前書き、あとがき、注書き、参考文献などを見て必要とするキーワード、キーセンテンスを見つけましょう。さらに、それを書き残す癖をつけましょう。ただし、自分にとっての肯定（賛成）も否定（反対）もメモします。ところが数日経って読み返すと、書いた時点では「これを使おう。」と思っていたのに、「なぜこれを書いたのだっけ。」とわからなくなり、もはやキーワードではなくなってしまった、という不思議な現象（サプリメント効果）が起きます。それはなぜか。書いたことにより思考がまとまり、メモした時点とは違う思考になった自分がいるということなのです。初年度中にこの「不思議」を数多く体験しておきましょう。論文作成時に自分探しばかりしては、とても期間内に字数を埋めることはできません。今は IT 機器に便利なメモ機能もあります。これらも駆使して、いわゆる「ネタ帳」づくりを今日から始めてはいかがでしょうか。皆様のご検討をお祈りします。